

随筆

## KYBT駐在記

瀬戸口 和 敬

## 1. はじめに

2014年9月から2017年6月までタイにあるグループ会社のKYB (Thailand) Co., Ltd. (以下 KYBT) へ海外赴任した。妻と子ども2人(当時、2歳と9か月)と私の4人で初めての海外生活をスタートした。

タイ人は子ども好きのようで、子ども2人を連れてくるとよく声を掛けられた。行きつけのスーパーでは、買い物すると毎度のように、何かの景品と思われるタンブラーやぬいぐるみなどを貰って帰ってきていた。なかでも記憶に残っているのは、初めて外食をしたときのことだ。子どもの世話をしながらだと、落ち着いて食事ができない。タイ人のホールスタッフが子どもを見てくれると、世話を焼いてくれたのだが、抱き上げるとそのまま店の裏へ連れて行ってしまった。まさか裏へ行くとは思っていなかったのだから、とてもハラハラし、いつもと変わらず落ち着いて食事ができなかったことは昨日のこのように覚えている。

そんな風潮からか、子どもの日のイベントも盛大に行われており、エムクオーティエというデパート前に海外ヒーローたちが勢ぞろいしたことがある(写真1)。まるで、ハリウッドのようであった。



写真1 子どもの日のイベント

## 2. タイでの生活

タイは、約7万人の日本人がおり、うちバンコクには5万人以上が暮らしている。そのため、日本人向けの飲食店やスーパーマーケットが多数存在しており、日本と遜色ない生活ができる。日本食は、日本と同レベルの価格帯であり、その他の品物(日本からの輸入品)の価格はおよそ3倍である。

日本人は、スクンビット(写真2)と呼ばれるエリアに多く住んでいる。なかでもアソークより東の、ブロンボン、トンロー、エカマイが多いが、最近は更に東のプラカノン、オンスットに移り住む日本人も徐々に増えている。また、日常の足には、タクシー、シーロー(軽トラの荷台に人が乗れるよう改造した乗り物)、モーターサイ(バイクタクシー)やBTS(高架鉄道)を利用する。



写真2 BTS路線図(スクンビットエリア)

買い物は、スーパーマーケットがいたるところにある。また、日本と同様に徒歩圏内にコンビニも多く、困ることはない。

日本人学校、日本人幼稚園へはバスでの送迎となっている。送迎エリアは限られているため、ファミリー向けの住居は家賃が8万バーツ(約25万円)を超える物件も増えており、上昇し続けている感がある。

入居のときに重視したのは、徒歩圏内に病院、スーパーマーケットがあることと、選べるのならば日本の家より広い間取りの部屋に住むことだった。スク

ンビット周辺は排水がよくないため、大雨が降ると道路が冠水し、すぐに交通渋滞が起こる。私が経験した一番酷かった渋滞のときは、普段車で15分で行ける場所まで3時間掛かった。同じように病院への行き帰りでも渋滞が常にあるため、徒歩圏内に病院のある住居を選んでいて助かったことが多々ある。

水道水は、日本と異なり飲むことはできず、ペットボトルの水を購入する。我が家では、渇水対策も含めて、クラブタイランド社の水宅配サービスを利用していた。ちなみにクラブタイランドは、ゴルフ場の予約や、水宅配サービスなどを展開している。年会費は必要だがクラブタイランドカード(写真3)を持っているとクラブタイランドの店舗でドリンクサービスを受けられるし(日本人がよく利用する日系スーパーのフジスーパー1号店と同じエリアにあり、買い物ついでに立ち寄れる)、飲食店の利用割引などもあり、ゴルフをあまりしない方でも持っていて損はないと思う。



写真3 クラブタイランドの会員カード

### 3. タイ料理

タイ料理は、基本的に唐辛子辛い。その辛さ、甘く見てはいけない。タイ人曰く、辛くないと美味しくないそうだ。

初めて食べたとき、「この唐辛子の量はおかしい！辛い旨いなどありえない！」と言ってしまったほどだ。そのため、よほど辛さに強いと自信のある方以外は、「辛くしないで」と伝える必要がある。

唐辛子を入れないで欲しいときには「マイベツ」と言えば通じる(実際には、少量入ることが多いが…)。

また、タイ人はよく調味料を足して自分好みに味つけをする。テーブルには、ナンプラー(魚醤)、砂糖、輪切り唐辛子の入った酢、粉唐辛子が必ずある。自分好みの味つけをして、食事を楽しむのがタイスタイルだ。タイ料理は「辛い、酸っぱい、甘い、

旨い」をふんだんに味わえるので堪能されたい。

タイ料理好きであれば、屋台も気になるところだろう。しかしながら、基本的に屋台の料理はおすすめしない。炎天下で食材が痛みやすいし、皿を洗う水が悪いことも多いからだ。水であたったという話はよく聞く。

代わりにおすすめしたいのは、デパートに入っているフードコート。フードコートには、現地でも名の知られた店が入っていることも多く、安心できる。価格は屋台より高いが、一軒家のタイ料理店に入るより明らかに安い。また、1か所で何店舗もの料理が食べられるのも魅力だ。

利用方法は、プリペイドカード方式が多く、各フードコート内にあるチケットセンタで購入できる。プリペイドの残金は購入したチケットセンタで、その日のうちに払い戻しすればよい。

我が家の休日の昼食は、決まってエンポリウムか、エムクオーティエのフードコートで食べていた。

私が好んで食べたのは牡蠣入りパッタイ(タイ風焼きそば)や、ソムタムタイ(青パパイヤサラダ)(写真4)だったが、久しぶりに食べたいと思うことがしばしばある。



写真4 ソムタムタイ

ところで、タイで消費される肉の種類をご存知だろうか。鶏肉、豚肉が好まれ、牛肉はあまり食べられていない。特に鶏肉は新鮮で、路上でも多くのガイヤーン(焼き鳥)が売られているが、ケンタッキーにも足を運んでみて欲しい。

個人的にはプロンポンのBigCか、ゲートウェイエカマイにあるケンタッキーがおすすめだ。この2店舗は回転率もよく、ジューシーでやわらかな肉質を味わえる。唐辛子のついたものと、オリジナルがあるので好みに合わせて注文する(日本と同じものは、オリジナルで注文する)。

#### 4. タイでの仕事

まず、タイで仕事をするにあたり直面する問題はタイ語であろう。タイ語は、「ภาษาไทย」こんな文字を使う。日本人から見ると絵文字でしかなく、読めないし、理解できない。発声については、5声あり、耳慣れない日本人にはなかなか聞き取れない(同じ言葉でも、発声の違いで5つの意味になる)。聞き取れないので、話すのも難しい。工場でマネージャークラスになれば、英語でのやりとりもそこそこできるが、現場や、日常生活で使われるのはタイ語である。英語を見てなんとなくわかるだけでも、随分ほっとする。会社で英語を使う機会があるのなら、英語を身に付けることをおすすめしたい。

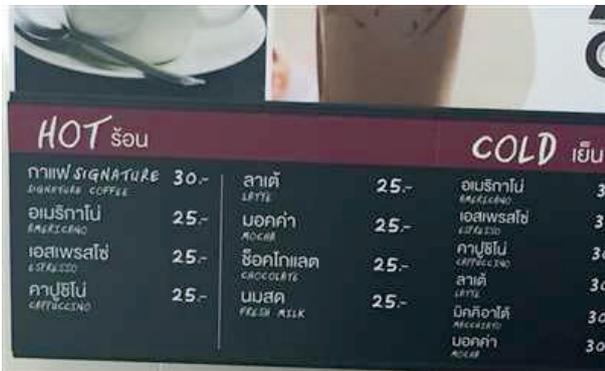


写真5 タイ語と英語の見た目の違い

私が出会ったタイ人は、そのほとんどがお世辞にも英語が達者とは言えなかったが、堂々としゃべっていた。文法が怪しくともコミュニケーションが取れるのだから、日本人にとって苦手な、話す度胸を身に付けるには最適な環境だと思う。

英語の発音にはタイ語のしゃべり方からくる独特の「タイ語なまり」があり、聞き取りにくい言葉もあるが、他の国に行くと、同じように癖があるのだから全く気にしなくていい。聞き取れないときは、紙に書いてもらおうと理解できる。

話すのが苦手であれば、まずは伝えたいことを英語でメモすることから始めればよい。私は英語が大変苦手だったため、まずはメモを書き、それを元に話すことから始めた(英語を書くことも苦手だったが、話すよりはマシだった……)。構えて英語を理解するというよりも、使ってとにかく慣れるというスタンスだ。

おかげで、今でもTOEICの点数を見ると英語をあれだけ使ってもこんなものかと、悲しい限りなのだが、アジア圏の人とは(具体的には仕事で関係のあった、タイ人、インドネシア人、マレーシア人)

とはコミュニケーションが取れたと思っている。

#### 5. タイの娯楽、旅行

タイと言えば、ゴルフという方も少なくないだろう。バンコク周辺のゴルフ場は選び放題だ。年間を通してゴルフができ、価格も通常日本人がよく使うと思われるゴルフ場は休日3000バーツ(約10000円)前後でキャディをつけて回ることができる。カートをつけると+700バーツ(約2500円)前後とっておけばよい。タイのゴルフ場は大抵カートなしでプレーすることができるため、ウォーキングしがてらカートを使わない人も多い。昼食抜きで18ホールを通してプレーし、朝は6時台からスタートできるため、うまくいけば午前中に終えることができる。

日本でゴルフをしたことがない方は、タイでゴルフを始めるのもよいと思う。暖かい気候で体をほぐしやすいし、ゴルフ場のコースは日本よりも平らに近いのでスイングしやすい。そんな環境からか、毎週土日はゴルフという声も少なくない。



写真6 アマタスプリングでのプロトーナメント

そんな頻度でゴルフを続ければ、さぞかし疲労蓄積するだろうと思われるかもしれないが安心して頂きたい。皆様方の強い味方になるのが、タイマッサージ店だ。タイマッサージは1時間で300バーツ前後(約1000円)と、日本のマッサージ料金と比べると格安だ。コースは色々あるが、一般的にはタイマッサージか、フットマッサージがよく利用されているようだ。

タイマッサージは、基本的には全身をくまなくほぐされるし、フットマッサージは、ひざ下のふくらはぎや、すねの揉みほぐしが中心になる。ゴルフ後のフットマッサージ90分コースは大変心地よい。

旅行は、せっかくなので海外旅行へという話はよく聞く。残念ながら、私は行ったことがないので多

くは書けないが、モルディブやバリ島に行くものらしい。お隣のカンボジアにある、アンコールワット（世界遺産）なども人気のようだ。

国内旅行は、プーケット島、チェンマイ、クラビ島などのパッケージツアーが豊富にあるが、我が家の行先はもっぱらパタヤであった。

パタヤはバンコクから車で3時間程度で行ける距離にあり、子ども連れでも楽に行けるので運転手つきレンタカーを手配して行っていた。小さな子ども連れでアクティビティーができるはずもなく、プールが大きく・種類の多いホテルを予約し、1日中ホテルのプールでのんびり過ごした。

話は脱線するが、タイのコンドミニアムにはプールや公園がついているところも多いので、子ども連れの方はそのあたりも選定候補に入ってくるかもしれない。タイは年中暑いので、室内で体を動かして遊べる場所の確保は必須だ。

そのほかに子どもが楽しめそうな場所は、動物園がある。よく行っていたバンコクサファリには、10頭は軽く超えるキリンが群がるなかで餌やりができる（写真7）。あまりの数のキリンが餌を求めてくるので、幼い子どもには怖かったりするかもしれないが。



写真7 バンコクサファリのキリン達

## 6. おわりに

初めてのタイでの仕事に集中できたのは、一番には妻の支えがあったからであり、2人の幼い息子を抱えてついてきてくれたことは非常にありがたかった。休日の仕事も少なくなかったため、子育てに大変苦労をかけたと思う。

帰任したタイミングが、子ども達が幼稚園へ行きだして手が離れだしたときということもあり、タイの醍醐味は味わえなかったようなので、時期をみてプライベートで出かけたい。

また、KYBTと一緒に仕事をした仲間達、ローカルスタッフや駐在員の面々やお世話になった皆様へ、このような貴重な機会を与えて頂いたことに感謝しつつ、本紙面を通してお礼申し上げたい。

## 著者



瀬戸口 和敬

2003年入社。オートモーティブコンポーネンツ事業本部サスペンション事業部生産技術部企画管理課。岐阜北工場生産技術部ストラット工程設計係、KYBTを経て、現職。